

京野菜産地『大原野』を目指して

28棟のパイプハウスが設置されました！

西京区大原野地域は、水稲をはじめ、なすやほうれんそうなどが栽培される市内でも有数の農業の盛んな地域です。

しかし、近年は、後継者不足や高齢化により、軽量野菜への転換が進んでおり、なかでも、消費需要が拡大しているみず菜の栽培が増加しています。

みず菜栽培の増加に伴い、本地域では平成8年度に「京都中央農業協同組合 西部みず菜部会」が設立され、部会を通じた共同出荷をするなど、産地化に向けた取組が行われてきました。

今回、本地域の9名の農家が、西部みず菜部会の下部組織として「ハウス栽培部門（代表 齋藤道喜氏）」を設立し、施設栽培による安定した生産体制の確立、産地拡大を目的に、京都市の京の園芸生産地育成支援事業として28棟（合計約3アール）のパイプハウスを設置しました。

この施設では、農業を低減させるため防虫ネットを設置しているほか、環境にやさしい京野菜の生産を目指し、有機資材を積極的に活用していきます。また、生産者は、栽培履歴の記帳を行うことで安全・安心をアピールしていきます。

大原野地域の特産でもある伏見とうがらし等の栽培に取り組んできた農家もメンバーとして加わっており、夏季のハウスの有

効利用として、伏見とうがらし等の施設栽培に取組、経営の安定を図ることとなっています。

今後、大原野地域がみず菜の産地として充実していくことはもとより、本組織が施設栽培による農業経営のモデル的役割を果たすことで、後継者不足に悩む大原野地域での就農意欲を高め、地域の活性化につながることを期待されています。



早速、みず菜が作付されています



ほ場整備田に設置されたハウス（一部）